

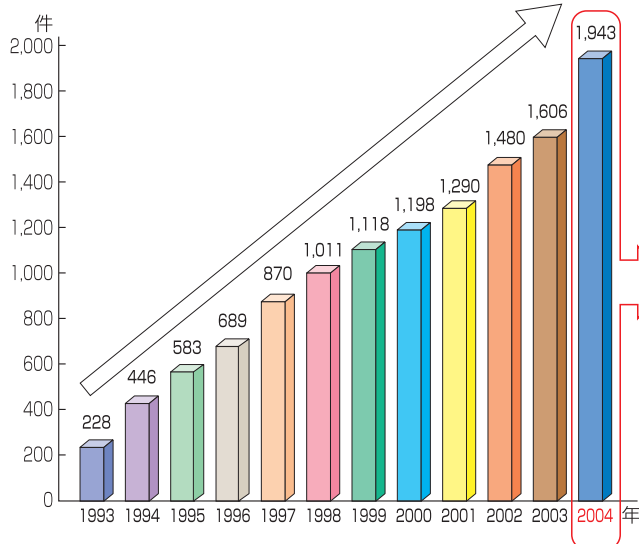
+ 輸血情報

【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 -2004年-】

2004年の1年間に医療機関において輸血による副作用・感染症と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用について示します。

輸血副作用・感染症報告件数 (医療機関から報告された数、輸血との関連性なしとされた件数も含む)

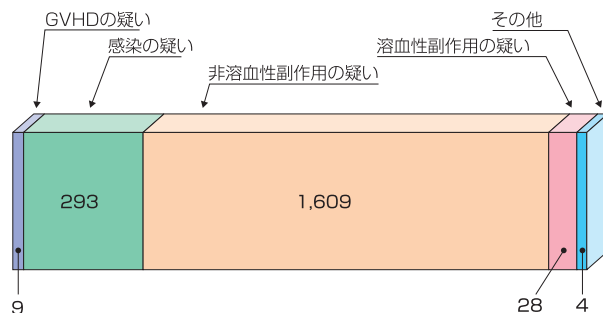
報告件数の推移



報告の内訳

2004年

これまでと同様「非溶血性副作用の疑い」が最も多く、全体の83%を占めています。

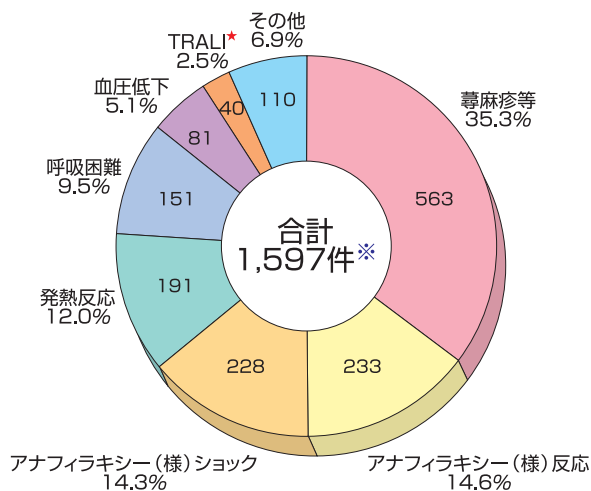


(GVHDの疑いのうちマイクロサテライトDNA解析によりキメラズムが確認された症例:なし)

非溶血性輸血副作用 (2004年)

副作用の種類

副作用の種類別の発生数及びその比率を下記に示します。このうち重篤例が多い「アナフィラキシー(様)反応」、「アナフィラキシー(様)ショック」、「呼吸困難」、「血圧低下」及び「TRALI★」は全体の46%を占めています。



★確定診断及び疑診断症例の総数

《参考》

【アナフィラキシー(様)反応】

全身潮紅、蕁麻疹、血管浮腫(顔面浮腫、喉頭浮腫等)、呼吸困難等の全身症状を示したもの。

【アナフィラキシー(様)ショック】

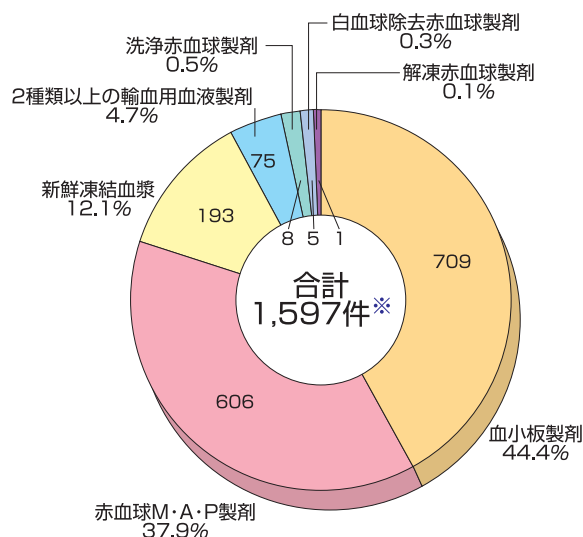
「アナフィラキシー(様)反応」に血圧低下を伴ったもの。

【血圧低下】

皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したもの。

使用薬剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。



上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

※非溶血性副作用の報告総数は1,609件であるが、報告後担当医が「輸血との関連性なし」と変更した12件を除外して解析した。

■使用製剤・症状別副作用報告(頻度)

2004年

製剤	血小板製剤	赤血球M・A・P製剤	新鮮凍結血漿
供給本数	738,044	3,387,419	1,412,797
蕁麻疹等	317件(約1/2千)	112件(約1/3万)	100件(約1/1万)
アナフィラキシー(様)反応	114件(約1/6千)	90件(約1/4万)	21件(約1/7万)
アナフィラキシー(様)ショック	118件(約1/6千)	63件(約1/5万)	32件(約1/4万)
発熱反応	50件(約1/1万)	120件(約1/3万)	11件(約1/13万)
呼吸困難	50件(約1/1万)	82件(約1/4万)	8件(約1/18万)
血圧低下	21件(約1/4万)	51件(約1/7万)	7件(約1/20万)
TRALI	17件(約1/4万)	12件(約1/28万)	5件(約1/28万)
その他	22件(約1/3万)	76件(約1/4万)	9件(約1/16万)
計	709件(約1/1千)	606件(約1/6千)	193件(約1/7千)

(頻度は対供給本数比)

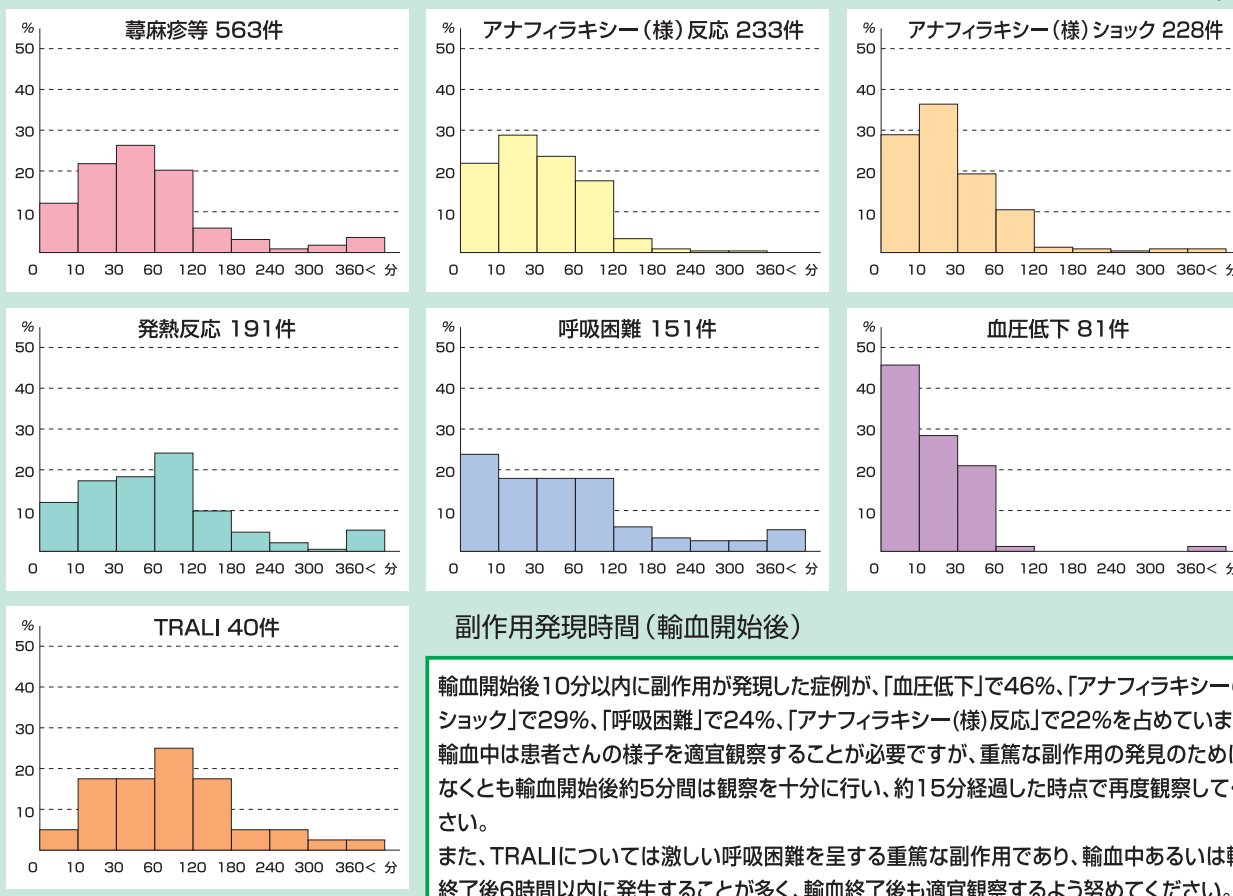
上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

供給本数に対する副作用報告頻度を使用製剤別にみると、血小板製剤が最も高く、約1千本に1件でした。

使用製剤・症状別では、血小板製剤の「蕁麻疹等」が最も高く、約2千本に1件でした。

■副作用発現時間

2004年



輸血用血液製剤または血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)等の提供をお願いします。

なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照し保存してください。

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号

秀和芝パークビルB館14階

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター 医薬情報担当者へお願いいたします。